

平成27年度

施政方針

2月26日に開催された市議会本会議で、木山耕三市長が平成27年度の施政方針を述べました。その一部を抜粋して紹介します。(全文は市ホームページに掲載しています。)

1. はじめに

早 いもので、市政の舵取りを託されてから丸2年が経過しようとしています。この間「庄原いちばん談話」をはじめ、多くの皆さんとの対話を積み重ね、「庄原がいちばん」と実感できる「ふるさとの実現」に全身全霊を注ぐとともに、直面する課題にも真正面から取り組んでまいりました。

昨年を振り返りますと、市長就任前より懸案となっていました「木質バイオマス活用プラント整備事業」の中止という苦渋の決断をいたしました。

不正行為を働いた事業主体の関係者には強い憤りを覚えるところでありますが、こうした結果を招いた点は真摯に受け止め、再発防止策を講じるとともに、今後の債権者破産申立による破産手続きを経て、当該補助事業の最終に努めてまいります。

一方で、同じく懸案事項でありました「超高速情報通信網整備事業」につきましては、新たな計画のもと昨年10月に事業着手の運びとなり、いよいよ本年10月末より庄原地域および東城地域の約6800世帯と850事業所でサービスが開始され、平成30年度中には市内全域での利用が可能となる予定です。

また、昨年は「第1期庄原いちばん基本計画」に基づく新たな施策の実質的なスタートの年でした。

かつて全国にその名を轟かせた「比婆牛ブランド」の復活や数々の食味コンクールで高い評価を受けた「こだわりの米」への支援など、着実な第1歩を踏み出すことができたものと実感しています。

同時に、これらの成果を通じて、生産者の皆さんの熱意や期待を改めて感じ、「庄原いちばんづくり」をより一層推進していく、その決意を新たにしたいと3月末日をもって、新「庄原市」の誕生

2. 市政運営の基本方針

から10周年を迎えます。節目となる年を迎えるにあたり、「市民の暮らしを守る」という使命、さらには自然豊かで美しい「古里庄原をいかに次世代へ引き継ぐか」という重責を改めて痛感しております。

このたび、新年度からスタートする「第2期庄原いちばん基本計画」をお示しいたしましたが、まずはこれら計画事業の着実な推進に取り組んでまいります。また、「庄原いちばんづくり」のさらなる高みを目指すためには、短期的な視点に留まることなく中長期を展望し、腰を据えてブランドデザインを描くことが重要であると考えています。

そのひとつは、「地域産業」および「にぎわいと活力」を未来に向かって一段と充実させるための戦略です。

本市には、比婆道後帝釈国定公園に代表される自然資源のみならず、熊野神社や比婆山御陵、葦嶽山など神話・伝説の資源が所在するとともに、比婆牛、乳牛、米、りんごなどに代表される、県内最大級の生産量を誇る農畜産物が豊富にあり、まさに大自然の恵みを受けた資源の宝庫といっても過言ではございません。

●「庄原いちばんづくり」の展望

市 長就任以来、「やっぱり庄原がいちばん」と心から実感できるまちづくりを基本理念とし、その実現のため「地域産業」、「暮らしの安心」、「にぎわいと活力」を柱とする各事業を展開して

ましては、ある程度の人口減少を受け入れる中で、一人一人が心豊かに安心して暮らし続けることができる、魅力ある庄原市の創造に向け、目指すべき姿や基本政策などにつきまして、市民の皆さんと共有できる計画となるよう心がけてまいります。

加えて、市内4カ所にインターチェンジが立地する優位性や、道の駅などの交流拠点施設が全域に所在するほか、おもてなしの心と優しさを持ちあわせた皆さんが多数おられます。

しかしながら、情報発信や立地条件、道路整備の状況などにより、有効な資源がまだまだ活用されていないのが現実と認識しています。

こうした現状を踏まえ、従来の概念にとらわれない創意工夫により、各地域の資源と魅力を磨き上げ、点ではなく線として一体的・有機的に結びつけることで、それぞれの地域に光を集め、全域を輝かせる構想を描き、関係施策の具体化を検討してまいります。

もうひとつには、より一層の「暮らしの安心」を図るための対応です。

本市では全国に先行して、75歳以上の高齢化率が上昇することから、こうした超高齢社会に対応するため、地域の特性を生かした、医療・介護・生活支援などがバランス良く機能する、いわゆる「地域包括ケアシステム」を関係者の皆さんと一緒に検討・充実してまいります。

さらに、人口減少・超高齢社会におきましては、生活に必要なサービスや集落機能の維持が困難になるとして、各種機能を一定の地域に集約化する「コンパクト化」と各地域を結ぶ「ネットワーク化」による「コンパクトシティ」の必要性が注目されていますが、とりわけ広大な市域の中に住居が点在する本市では、先送りすることのできない検討課題で

あると認識しています。

私の思いは、一般的に言われる「集落を移転し効率性を高める」といった視点ではなく、「生涯にわたり住み慣れた庄原市で安心して住み続けるために、どのような手法で生活環境を整えることができるのか」ということでもあります。まずは、雪深い集落にお住まいの一人暮らしの高齢者が、冬の間に安心して生活できる施設の検討など「高齢者向けコンパクトシティ」の本格的な調査研究に取り組んでまいります。

●「長期総合計画」への取り組み

合 併から10年を経て、本市の人口は約6千人減少し、現在、3万8千人余りとなっております。さらに、昨年、日本創成会議が公表した、出産年齢の中心である20代から30代の女性人口の減少に伴い、将来的に行政機能が立ち行かなくなる「消滅可能性都市」にも含まれていました。

こうした現状を鑑みますと、今後におきまして「人口減少対策」が最重要課題のひとつであることは言うまでもありません。わが国全体が本格的な人口減少を迎える中、人口の絶対数を増加させることは極めて難しいと判断できることから、いかにして減少を抑制するか、さらに、減少に伴う市民生活への影響を見極め、どのようにそれに対処するかが重要であると考えています。

第2期長期総合計画の策定にあたり

3. 庄原いちばんづくり

第 2期庄原いちばん基本計画」に踏みまえた将来の姿を見定め、「次代につながる庄原市」の実現に資する事業を新たに掘り起こしたところです。

①「地域産業のいちばん」

豊 富な農林産資源を活用し、本市ならではの、こだわりのブランド化による、産品の高付加価値を進めるとともに、本市での生活や産業基盤を支えてきた農林業の振興・甦生を図り、将来にわたり地域が持続可能となるよう、経済構造を確固たるものとしてまいります。

ひとつには、自然風土や土づくり、栽培、飼育の技術など、本市固有の条件や生産過程の特性を生かし、商品価値を高める「ブランド化の推進」です。

昨年7月、多くの関係者の努力により「比婆牛ブランド」の復活を宣言しました。地域内で肥育される「比婆牛素牛」などの増頭が課題となっていることから、まずは、増頭支援策を充実させてまいります。



